

罪人を呼び求める神

創世記三章

そこで人とその妻は、神である主の顔を避け、園の木の間に身を隠した。神である主は人に声をかけて言われた。「どこにいるのか。」(8、9)

最初の人アダムとエバは神の言葉を退け、禁じられていた木の実を食べました。人間の罪の始まりです。罪とは、神を否定して自分が神の座に着くことです。我に返った二人は神の顔を避けて逃亡します。身を隠すことで、自分たちの罪をも隠そうとしたのです。その二人に神は声をかけられました。「どこにいるのか」と。これが人間に対する神からの第一の問いです。造り主なる神から離れて、本来のあるべき所にいない事実に気づかせるための問いです。この問いかけは、「あるべき所に帰って来なさい」という神の招きです。自分から立ち帰ることの出来ない罪人に対し、神のほうから私たちを捜し求めてくださいます。神の赦しと愛の招きが先にあるからこそ、罪を犯した人間が神のもとに立ち帰ることが出来るのです。それゆえ、私たちは何度でも神のもとに帰ることができます。